

# あだたら

A d a t a r a

原稿: 菅野 晴香 氏  
Photo: 藤が巻

二本松青年海外協力隊訓練所 JICA二本松ニュースレター

2006年秋号(第4号)  
— 季刊第4回発行 —

## 郡山市長(原 正夫氏)ごあいさつ

シリーズ連載 セカイのくじから「インドネシア」

**JICAデスク** — 徒然なるままに…  
～JICA教師海外研修 ラオス編～

国際協力川柳 — 投稿特集!

福島出身の候補生

エッセイコンテストで  
県内応募1,000件突破!



▲「ラオスのこども」出版プロジェクト

(特活)「ラオスのこども」代表

### チャンタソンさんを迎えて

10月14日(土)、JICA二本松において、第1回NGO-JICA連携研修が開催されました。今回の研修では、(特活)「ラオスのこども」代表のチャンタソン・インタヴォンさんを講師に迎え、絵本出版プロジェクトを通じた連携活動の実態についてお話をいただきました。

写真は講師のチャンタソン・インタヴォンさん

## 郡山市長ごあいさつ

# 郡山市における国際協力・交流事業



郡山市長  
原 正夫氏

福島県の中央に位置し、人口約34万人を有する本市は「市民が主役の郡山」の基本理念のもと、市民の視点に立った効率的、効果的な行政運営に努め、『人を惹きつけ住みたくなる魅力あるまちづくり』を進めております。

本市の国際交流の推進につきましては、郡山市国際交流協会と連携を図りながら、在住外国人と市民との交流や当該外国人への有益な生活情報の提供等を行うとともに、国際姉妹都市であるオランダ・ブルメン市との交流

を実施しております。

また、高校生の海外派遣事業及び「郡山市小中学校英語教育特区」の認定を受けた外国人英語講師の市単独任用や小学校での英語表現科の導入等により、国際理解能力の向上を図るとともに、国際化社会に対応できる人材の育成を図っているところであります。

なお、JICAが主催する事業への支援につきましては、海外研修員の本市への親善訪問の受け入れや青年海外協力隊の募集をはじめとするさまざまな事業に関する広報を実施しております。特に、青年海外協力隊等については、本市から現在派遣中の10名を含め、66名の隊員が各国へ派遣され、現地の方々と生活を共にしながら、より良い国づくりのための協力活動をしてまいりました。

本市では、今後も引き続き、在住外国人の方々にとって親しみやすく住みやすいまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

郡山市長 原 正夫



うねりまつり

## 留学生セミナー

福島は、森林環境税の導入など環境教育に対して非常に積極的な県ですが、訓練所の位置するここ岳温泉界隈も、有機農場や森林整備ボランティアの活動などがとても盛んな地域であることを皆さんご存知でしょうか？

JICAでは毎年、長期研修員や国費留学生など約370名を対象に、「留学生セミナー」というものを実施していますが、彼らに環境に対する福島県の取組みを紹介し、母国の発展に少しでも役立ててもらおう、との考えで、今回、県民の森「フォレストパークあだたら」を拠点に、16名の留学生を集め、8月21日から8日間の合宿セミナーを実施しました。

二本松初のセミナーであったにも関わらず、地元の講師陣が親身になって指導にあたってくれたおかげで、留学生一同、森の間伐から炭焼きまで汗まみれで実践する大変充実したセミナーを受けることができました。

「森との共生」をコンセプトにした「フォレストパークあだたら」で学んだ環境の大切さは、安達太良山の温泉ときれいな星空とともに、留学生ひとりひとりの心に強く印象づけられたものと思います。



▲フォレストパークあだたらで

## 研修員だより

### 「医療器材管理・保守(基礎)コース(中南米)」

去る10月最初の日曜日、上記コースの研修員9名が、磐梯山ふもとの曾原湖において、湖畔清掃のボランティアを行いました。当日は地元市民の皆さんと汗を流した後、福島名物の「芋煮会」で体を温めました。磐梯山といえば、黄熱病で有名な「野口英世」生誕の地。中南米のペルーやエクアドルでも研究を進めた英世のように、今回の研修員にも医療分野での大きな活躍を期待しています。

曾原湖湖畔でのボランティア活動



## JICAデスク — 徒然なるままに…

### 知っていますか？ JICAの行う開発教育支援事業 ～JICA教師海外研修編～

JICA二本松では小中高校教員を対象に毎年1回「教師海外研修」を実施しています。目的は、開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察を通じ、開発途上国の置かれている社会・教育事情、日本との関係や国際協力への理解を深め、その経験・成果を帰国後の授業等の実践に生かし、次代を担う生徒の国際理解・国際感覚の養成に役立ててもらおうことです。

今年度はJICA二本松とJICA筑波との共催で、福島県・宮城県・茨城県の教員7名が、7月29日～8月10日までの約2週間、ラオス海外研修へ参加しました。現地では、JICAプロジェクト視察や青年海外協力隊員の活動見学、ラオス学校教員との意見交換会、現地の子供達との交流会など、国際協力の現場で生の声、現状を目の当たりにすることができました。



ラオスと日本、先生が抱える問題と解決を話し合った両国の教師陣。

サイエンス実験をする先生と興味津々の子供達



このラオス研修を経て先生達は各学校で授業を展開中。その授業の一コマを12月16日・17日の「ふくしまグローバルセミナー2006(会場:JICA二本松)～手と手を合わせてサバイディー！～」にて体験できます。お問い合わせはJICAデスク橋本まで。

国際協力やNGOのご相談は…

JICAと福島県の連携促進など、各種ご相談を「国際協力推進員」が承ります。ご連絡は下記までお願いいたします。

〒960-0801 福島県二本松市橋本 TEL: 024-524-1315 / FAX: 024-521-8308 / URL <http://www.worldvillage.org/>



## W.W.W. ワールドワイドなわたし達…

### 福島県立富岡高校 ～「エビとマングローブ」の巻

今回は国際協力の実践編、「外国料理実習から見る異文化」と題し、JICA二本松青年海外協力隊訓練所の桑嶋料理長さんから直々にブコの技を学びました。

エビを使った料理実習を通して、世界の食糧問題の状況、マングローブ、環境問題、また日本の食べ物との関係など、実習の楽しさと裏腹にある世界と日本の現状に気づき、更なる国際人へ成長している姿が見られました。次回もお楽しみに！



◆所長イラスト：青年海外協力隊 平成18年度1次隊 廣瀬聖子さん

例年「にほんまつ地球市民の会」と協力して実施していた「ボランティア清掃」は、今年は霞が城清掃の代わりに「安達が原ふるさと村」で二本松市の合併記念植樹が執り行われることになり、二本松青年海外協力隊訓練所から100名以上の隊員候補生が参加することになった。当日、思い思いのスポーツウエアや作業着姿で会場に集まった候補生は、初めて植樹を経験する者もいて地元の方々の指導を受けながら苗木を植え、無事植樹祭を終えた。その後、隣接する公園内で清掃や草刈を行ったが、鎌を持つのは初めてという候補生が多数いたため、地元の方々の草刈指導を得ながら作業を行った。候補生はみな悪戦苦闘しながらの作業であったが、1時間ほどで草刈もだいふ馴れてきて、素人でも結構きれいに清掃できるようになった。作業後、「にほんまつ地球市民の会」から豚汁とおにぎりが振舞われ、今日の作業を振り返り、おしゃべりを楽しみながらの昼食となった。こうした「ボランティア清掃」の機会を提供くださった「にほんまつ地球市民の会」の皆様へ感謝申し上げたい。

同訓練所では、訓練中に地元の方々と交流やボランティア活動の一環を経験してもらうために所外活動や

日本文化講座や任国生活技法という講座を設けているが、正直に言って一日や二日の行事ではなかなか本格的なボランティア活動や市民との交流が出来なのが現状である。二本松市民にとっては最大の恒例行事である「ちょうちん祭り」や岳温泉の「盆踊り」や「かぼちゃ祭り」にJICA関係者が参加することはあっても、それはあくまでもゲストであって主催者・共催者側ではない。



▲植樹をする候補生

同訓練所では、県内各地において県や国際交流団体、NGO等と連携し、国際協力や開発教育に資する各種セミナーや一般市民を対象とした地球市民フェスティバル等を開催しているが、残念ながらJICAが主体的な役割を担って、地元二本松市民を巻き込んだ形での大きな行事はこれまでほとんど行われてこなかった。二本松市内には、「にほんまつ地球市民の会」という強力な支援組織があるので、今後JICA二本松としては街の活性化

も含め同会と何か連携事業ができないものか検討する予定。

同訓練所は、平成6年12月に国内で3番目（今年度より駒ヶ根と二本松の2ヶ所のみ）の協力隊訓練所として完成した。同訓練所は、翌年5月に開所式を挙行、7月には皇太子殿下同妃殿下のご来臨を賜るなど、開所当時はマスコミや市民に注目されたが、以来12年間を経て同訓練所の存在は、二本松市民にとってはごくあたりまえの日常的な風景となって、何も特別なことではないように思われているようだ。同訓練所が地元と一体となって馴染んでいくことは喜ばしいことではあるが、それだけではやはり何か物足りないものを感じる。せっかく開発途上国をフィールドとするJICAの拠点が二本松市にあるのだから、地元市民に対しての国際協力への理解促進や国際協力への参加を呼びかける機会や行事がもっとあってもよいのではなかろうか。

幸い、2000年に二本松市が友好都市協定を結んだ長野県の駒ヶ根市には参考となる先行事例がある。駒ヶ根市では、毎年10月22日に「みなこいワールドフェスタ」が駒ヶ根駅周辺の商店街で開催され、同訓練所からはスタッフ、語学講師、候補生、帰国隊員など多数のJICA関係者が参加している。このフェスタは、宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町（頭文字をとってみなこい）の4市町村が共同で開催するお祭りであり、駒ヶ根青年会議所のメンバーが中心となって地元商店街、同訓練所等と協力して作り上げた「ワールドフェスタ」である。こうした先行事例が身近な所にあるので、今後JICA二本松としては地元市民に対し、忘れかけた青年海外協力隊訓練所の存在意義を一層強くアピールし、どのようなメッセージを伝えるべきか検討していきたい。

JICA二本松所長 筒井 昇



シリーズ連載

# せかいのくにから [第4回]



## 私のふるさと—インドネシア

～インドネシアに今も残る母系社会～

インドネシア語 語学講師 エディザル



▲水牛の角を束った屋根を持つミンナカバウ族の伝統的な家

インドネシアの西部スマトラ州に行き、その社会をじっくり観察すると、なんと男の数の少ない地域だと思うだろう。何故かという、この州に住むミンナカバウ族には母系制度が存在しているからだ。

母系社会の中では、家族系統は母方で決めるので、自分の子孫を残すために、どうしても娘がほしいというのが母親の常の願いだ。息子は必ず婿入りとなり、親の遺産は一切もらえず、家を引き継ぐことができない。「可愛い子には旅をさせよ」というのは名目で、要のない息子にさっさと家を出て行ってほしいというのが母親の本音だろう。この語は可愛い娘には当てたくないようだ。「嫁よ花よと育てる」ということだろう。

成長しても尚、親の屋をかじっているような息子にとって、家族や親戚や周りの人たちの目がきびしい中で、家に留まっているのは困ごちが悪い。結婚していない息子は、村の子なら町へ行き、町の子なら、別の町か他の島へ行って稼ぐ。母系社会に捨てられた子はインドネシア中のあちこちに散らばっている。族外結婚しか許さない社会だから、他の村の娘と結婚するほかは嫁の実家で生活する。

他の州で出嫁し、成功する子もいるが、あまり成功しない子もいる。どちらも故郷へ帰らずに、そのまま、その地域の娘と結婚する者が多い。特に、あまり成功しない子は故郷へ帰るのを恥じたと感じ、よその地域の嫁をもらう。そのため、母系社会では男性の数が減り、女性の数が増えるのは避けられない現象だ。従って、男の価値が高くなる。

父系社会と異なって、縁談は女性側からもちかける。西部スマトラ州では、何十万という未婚の女性が男のドアをノックする順番を待ち立ち、並んでいるようだ。つまり、男の人数が少ないため、女性が相手を探すのは至難の技ということだ。親は娘に相応しい男を多くの所へ探しに行き、相手が見つかったら、自分の娘のために盛大な結婚式を上げる。新婦さんは嫁の家族と一緒に住み、婿となった男はかかあ天下の妻の占領下におかれる。男は町の場合、町での仕事を続けるが、村の場合、嫁の田んぼなどを耕し、奴隷までとはいかないが、その家族に身を捧げる。婿としての立場が弱い。女性は新しい環境に適応するのが早いようだが、嫁の家に住む適応性の低い男に、この定めを受け入れながらも、精神的

にストレスがたまる。

母系社会の起源について参考すべき文献はないため、謎に包まれているが、天地創造以来、あったのかもしれない。大昔、結婚というものがなく、女性が複数の男を持っていたという時代があったという説もあり、狩猟時代の家では男が不在のため、女が強くなったという説もある。嫁の家族と住みたくないという男は少なくないようだ。私は高校を卒業した時、すぐにでも他の島へ行き、母系社会の女とは結婚しないという信念を抱いた。男にとっても女にとっても、マイナス効果である母性社会に、文句を言う人はいないようで、不思議に思えるが、女性の方が絶対に母系制度を変えたくないのだから、…となんとなく感じる。

現在、日本の社会は女性が経済的に自立できるような環境になった。男が要らない未婚の女性も多く、結婚しても自分の名字を変えない女性も増え、婿入りし妻の姓となる男性も少なくない。進化し続ける日本の女性がますます強くなり、いつか女性天皇や女性首相が誕生したら、男尊女卑の社会を踏みつけ、日本の社会も西部スマトラの社会のような母系社会になるかも??



インドネシア

インドネシア Data  
赤道直下にある17,500島の島国  
面積:日本の5.5倍  
人口:約2億5千万人  
首都:ジャカルタ(750万人)  
通貨:ルピア

次回予告 ブルガリア語語学講師 ブラド先生 …どうぞお楽しみに!!

**World Quiz**  
ワールドクイズ  
Q インドネシアを構成する島は?  
①カリマンタン島 ②ミンダナオ島 ③ハイナン島  
正解は、●ページC

## 施設見学の『窓』

会津若松市からの勇姿!

各地域の公民館が、様々な年齢層に対して企画する国際理解講座が増えているのをご存知ですか?

さて、今回は会津若松市からの小学生の「こめら・あそび塾(少年教室)」をご紹介します! 日本と世界のつながりについて、グローバルピンゴを通して「どうして協力隊を派遣するの?」ということを考えました。そして、協力隊の体験談では、モロッコの食事風景やスリランカの朝の村の会話を実際に体験しました。さらに、現地語で書いたシオリ作りに挑戦! みんな上手くできたかな?



▲施設見学風景  
「私はだあれ? モロッコ人?」

## 公開講座「ジェンダーと開発」

機かいはつ  
マネジメント・  
コンサルティングより服部  
先生をお呼び  
して、公開講  
座「ジェンダーと開発」が10月20日にJICA二本松にて行われました。「男と女のイメージは?」という質問から様々な問題を考えていき気づきも多くあり、候補生と同じ講座を学べます。年に4回の訓練時に毎回実施していますので、皆さんの参加をお待ちしています。



JICA二本松HPより施設見学申込用紙がダウンロードできます。

※URL～ <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/taiken.html>

# 国際協力川柳

現在の心境から  
あの国で会得の技術が我財産  
会いたいな あの・ノニャドウして いるだろう  
いつかまた 派遣に備えて 語学習  
体力と 語学を鍛えて 時を待つ  
後然に  
援助とは 派遣国から 学ぶこと  
二本松 発展するのを 日本待つ (四年目の帰国専門家)  
※今回県内専門家OBの方から大量の投稿がありましたので、特集して紹介させていただきます。  
読者のみなさまもぜひ、徒然なるままに浮かんだ句をお送りください。お待ちしております。

## CD-Review

# CDレビュー

## 「驚異のイリンパ・アンサンブル〜タンザニア」



アフリカを代表する楽器「親指ピアノ」による演奏集。ジャケットに写る3人のメンバーは、1964年、ニエレレ大統領によって作られた「国立バガモヨ芸術大学」の教授です。親指ピアノは地域によって、カリンバ、マリンベ、チリンバなど色々の呼び名がありますが、ここに登場する「イリンパ」は超大型66鍵で、華麗なサウンドが聴けます。二本松訓練所のJICAプラザにも小型の「チリンバ」が用意してありますので、ぜひ足をお運びください。



JICA理事長による、UNHCR時代10年間における「イラク」、「バルカン」、「アフリカ」、「アフガン」人道援助最前線の回想録。ぜひ一読を。

「紛争と難民 緒方貞子の回想」 緒方貞子著 集英社 (2006/3) 3,150円(税込)

## 岳温泉の素敵なレストラン

# 喫茶「FOREST」

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



安達太良山を映す「鏡が池」の畔に佇むホテル「登山亭」。そのロビーにある喫茶「FOREST」は、自然の木をふんだんに使った癒いの場です。「鏡が池」は、協力隊候補生が訓練期間中に清掃ボランティアを行っている岳温泉の美しい池でもあり、この時期には見事な紅葉が望めます。秋の散策がてら、おいしいコーヒーを飲みに来ませんか？  
住所：二本松市岳温泉2丁目13番地 (訓練所から車で5分)  
※●頁の地図をご参照下さい。

## 福島県出身JICAボランティア 2006.9.30現在

合計40名【JOCV(短含)、SV(短含)、日系青年、日系シニア、調整員】





宇佐美香織 (出身地: 郡山市, 派遣国: ジンバブエ, 職種: エイズ対策)

待ちに待った訓練が始まり、早くも10日が過ぎました。多くの仲間と出会い、恵まれた環境の中で実り多き日々を過ごしています。世界的にも深刻なエイズ問題を抱える南部アフリカの国ジンバブエで、学校での予防教育を中心に「人々が健康に暮らし、社会で共に生きるとはどういうことか」、先生を目指す大学生たちと一緒に考え、学んでいきたいと思っています。多くの人に支えられ手にしたこの切符をしっかりと握りしめ、【これからの2年間が良き出会いに溢れた素晴らしいものとなるよう、残りの訓練も一日一日を大切に】精一杯頑張っていきたいです。



伊東直樹 (出身地: 郡山市, 派遣国: モザンビーク, 職種: コンピューター技術)

私が派遣される予定のモザンビークは言語、文化、人種など、様々な面で日本とは全く異なる国です。派遣国に関する情報もそれほど豊富にあるわけではなく、実際に行くまで未知の部分が多いので、現地での生活に対応していけるかどうかなどの不安があります。しかし反面ではモザンビークで新しい発見や経験を得られることを大変期待しています。障害も多々あるでしょうが、それら乗り越えて自分の糧とできるよう前向きにやっていきたいと思っています。



吉田澄江 (出身地: 西郷村, 派遣国: マレーシア, 職種: 養護)

青年海外協力隊への応募のきっかけは、ネパールへの旅行でした。ネパールの子供たちのキラキラした目と出会い、「海外の子供たちと共に学びたい」と強く思ったのです。二本松訓練所は出身地の西郷村と同じように、自然に囲まれた素晴らしい環境にあります。紅葉した木々の下を毎朝ランニングするのが楽しみです。おいしい空気、水に感謝しながら健康に気をつけ、現地で必要なコミュニケーション能力等を高めていきたいと思っています。

## 福島出身の候補生

平成18年度2次隊 (二本松青年海外協力隊訓練所)

— 世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい。 —



和田英樹 (出身地: 郡山市, 派遣国: モロッコ, 職種: 土木)

JICA二本松に入所しての感想は、とにかく自然が豊富だということです。本訓練所は国立公園内に立地しており、澄んだ空気と緑に囲まれた環境の中、日々の訓練が行われています。私の派遣予定国の地域は現在、観光客の誘致に向けて、市街地中心の再整備事業や道路整備、公園の造成といった、数多くのプランが計画されています。私がこれまでに携わってきた実務の経験を生かして、現地の技術者とともに、よりよい街づくりを行ってみたい！というのが、私の青年海外協力隊への参加の動機でした。

訓練所の生活は、海外ボランティアとして任地で十分に活動できるよう、様々な訓練が盛りだくさんの毎日ですが、その中でも特に言語の学習が大きな比重を占めています。限られた期間内での言語の習得には相当の苦勞も伴いますが、より大きな困難に直面している海外の人々のために、自分が活動できるという幸運に恵まれたことを忘れずに、日々努力していきたいと思っています。



松野育美 (出身地: 桑折町, 派遣国: モロッコ, 職種: 助産師)

県外の大学病院で助産師として4年働いた後、子供の頃からの夢だった青年海外協力隊に参加するため、地元桑折町に戻ってきました。

訓練に入る前にクリニックで働く機会があったのですが、妊娠や出産で訪れる友人・知人と再会したり、心温かい人たちとの出会いがあったりと、福島の良いを実感せずにはいられません。

福島には応援してくれる人がたくさんいます。周囲の期待に応え、そして自分の夢を叶えるために、今は精一杯訓練に励みたいと思います。



大和田ゆかり (出身地: 須賀川市, 派遣国: ザンビア, 職種: 卓球)

私は、以前、福島県の海外派遣事業に参加したことがきっかけとなり、「13年間続けてきた卓球という特技を活かして途上国で活動してみたい」という思いで協力隊を受験しました。

派遣にあたっては、治安の面、健康管理の面など、不安は多くありますが、訓練中にしっかり対応策を身につけ、語学においても苦手意識を克服できるよう頑張りたいと思います。そしてザンビアの人々に囲まれ、少しでもザンビアに卓球を広めてくれるよう頑張りたいと思います。

# 12月～1月のイベント情報

- 12月1日(金) 「平成18年度鶏飼養管理・生産技術」コース開講式
- 12月6日(水) 公開講座 地球のステージ (於:JICA二本松)
- 12月13日(水) 平成18年度第2次隊 修了式
- 12月16日(土) 福島グローバルセミナー2006(～17日までの1泊2日)
- 12月下旬 「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」入賞作品発表
- 1月5日(金) 平成18年度第3次隊 入所式

12月6日(水)  
15:10～17:00公開講座 地球のステージ (於: JICA二本松) 出演者: 桑山紀彦 (NPO法人地球のステージ・医師) \*先着50名  
連絡先: JICA二本松 TEL:0243-24-3200  
映像と音楽のシンクロステージでインド・東ティモール・アフガニスタンなどの貧困紛争地域の子どもの現状を、たくましい姿を紹介する。

バイオリンとピアノのコラボレーション

## FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2006

親民カレッジ連講講座

日程 2006年12月16日(土) 12:30  
17日(日) 12:30

会場 JICA二本松(二本松市千代田)

ふくしまのグローバルセミナーの2006年は、国際協力・国際能力・多文化共生・国際理解教育について、体験を通して学び、考えあわせるセミナーです。講師はみなさんご自身で、ふくしまにいたいという方、自らの国際理解を深めたいという方、教育や国際交流に関心がある方、セミナーを通して、発見と学びの機会を掴んでみたい方など、学生や社会人の方からご参加を歓迎しています。詳しくは、お電話・お申し込み・お申し込みください。

- 参加対象者 一般(高校生以上)
- 定員人数 110名
- 授業科目 ①2006年11月20日(土) ②12月16日(土) ③12月17日(日) ④12月18日(月)
- 参加費 ①2006年11月20日(土) ②12月16日(土) ③12月17日(日) ④12月18日(月) ⑤12月19日(火)

福島県国際理解教育ネットワーク  
〒964-8558 二本松市千代田1-1-1  
TEL:0243-24-3200 FAX:0243-24-3214

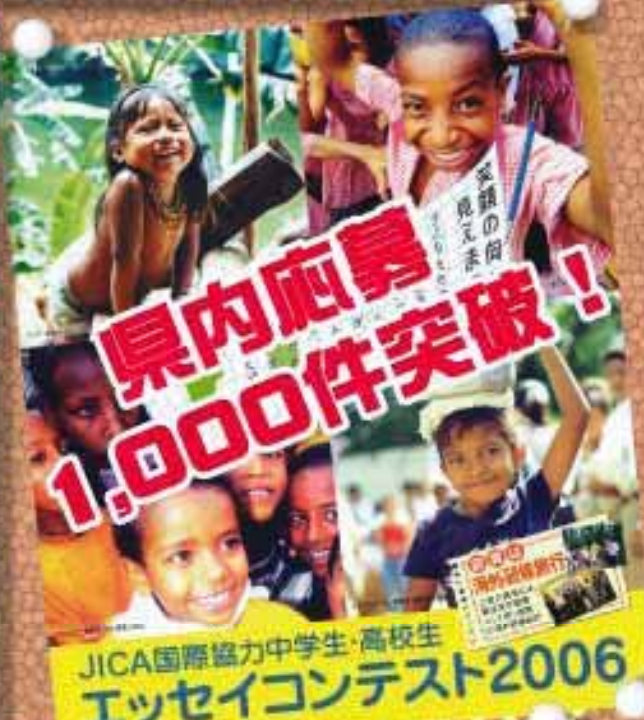
このセミナーの開催を機に、ふくしまの国際理解教育について、市民・企業・学校・行政・NPO等が連携して取り組むことにより、ふくしまの国際理解教育の発展に貢献することを目的としています。

主催者 JICA二本松(国際協力機構)  
協賛者 福島県国際理解教育ネットワーク  
後援者 二本松市国際交流協会  
協力者 二本松市国際交流協会  
お問い合わせ先 JICA二本松 TEL:0243-24-3200 FAX:0243-24-3214

# ふくしま 2006 グローバルセミナー

体験から学び、出会いからはじまる

参加者  
募集中!



JICAが毎年実施している「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」で、なんと今年は昨年比2倍近くの1,031件(中学652件、高校379件)の応募がありました。県内関係者のみなさん、学生のみならずご協力大変ありがとうございました。12月末には入賞作品が発表されますので、この紙面で紹介します。楽しみにお待ちください!

### 編集後記

岳温泉の女将会は、なぜか仮装好き。夏の盆踊りに続いて秋のハロウィン祭りでも仮装大会が催され、100人以上の隊員候補生が参加し、みごと準優勝を獲りました。——(ジャイ男)



(写真)ハロウィンのカボチャ

### JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構  
二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558  
福島県二本松市永田字長坂4-2  
TEL:0243-24-3200  
FAX:0243-24-3214  
E-mail: jicanjv@jica.go.jp

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

